

WEEKLY SIGNAL

2019年8月2日(金) 1485号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想				
8/5(月)		8/6(火)	8/7(水)	8/8(木)
無担保O/N		△0.086% ~ 0.001%		
銀行券		トシ	トシ	△1,000
財政他		+ 2,000	△7,000	+ 1,000
資金需給		+ 2,000	△7,000	トシ
主な要因		国債発行(30年)	交付税特会償還・借入	国債発行(物価連動10年)
オペ期日		共通担保(全店) △2,400 CP等買入 △200 社債等買入 △100 国債補充供給 + 100		
オペスタート		国債買入 + 3,200 共通担保(全店) + 2,300		
(日本)		家計調査(6月) 毎月勤労統計(6月) 景気動向指数(6月)	日銀金融政策決定会合に おける主な意見(7月29、30日分)	国際収支(6月) GDP(4~6月速報) マネーストック(7月)
(海外)		米 ISM非製造業 総合景況指数(7月)	米 セントルイス連銀総裁、講演 米 求人件数(6月)	米 シカゴ連銀総裁、 メディア向け朝食会を開催 米 消費者信用残高(6月)
			ECB経済報告 米 新規失業保険 申請件数(3日終了週) 米 卸売在庫(6月)	米 PPI(7月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 3M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、405兆5,800億円から始まった。週を通して概ね横ばい圏で推移したが、2日の税揚げ・保険揚げを主因に大幅に減少し、395兆8,800億円で越週した。無担保コールON物は地銀業態の調達意欲が弱く、週を通して軟調な地合となった。同金利は△0.072~△0.063%の狭いレンジで推移した。ターム物は、1~2W物で△0.055~△0.040%の出合が見られた。

日本銀行は29・30日に金融政策決定会合を開催し、金融政策運営の現状維持を決定した。なお、会合後の声明文では『特に、海外経済の動向を中心に経済・物価の下振れリスクが大きいもとで、先行き、「物価安定の目標」に向けたモメンタムが損なわれる恐れが高まる場合には、躊躇なく、追加的な金融緩和措置を講じる。』との文言が新たに追加された。FRBは31日、FOMCで政策金利を0.25%引き下げ(年2.25~2.50%→年2.00~2.25%)、2008年12月以来10年半ぶりの利下げに踏み切った。また、米国債など保有資産を縮小する「量的引き締め」も、2カ月前倒しして終了することにした。来週の主な予定はGDP(4-6月速報)(9日)、海外ではセントルイス連銀総裁の講演(6日)がある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.130 ~ △0.05
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<CP P>

今週の入札発行総額は約1兆3,100億円で、週間償還額(約1兆2,800億円)と同程度の発行となった。月末償還(約1兆円)に対しては、9,000億円程度の発行に止まったが、月初や5日スタートでまとまった額の発行が見られた。先週末の市場残高(21兆4,974億円)に対し、月末発行残は21兆5,820億円程度となった模様。発行レートは、引き続きマイナスから0%近辺での横ばい圏内の出合いであった。

来週の償還総額(8/5~8/9)は、4,500億円程度となっている。週前半は、夏季休暇前の前倒し発行もあり発行増が予想されるが、後半はスタートが夏季休暇にかかるため落ち着いたマーケットとなるだろう。発行期間としては、今週同様、中間期末までの短いターム物の発行を予想する。発行レートは、引き続きマイナスから0%近辺の出合いとなろう。6日に、CP等買い入れオペが2,500億円でオファーされる予定。

<TDB>

国庫短期証券市場では835回債(9/2償還)と838回債(9/17償還)は△0.100%で取引されたが、8月1日には835回債が△0.070%、838回債は△0.097%まで売られた。2日の3M848回債入札結果は最高落札利回り△0.1070%(前回債△0.1202%)、平均落札利回り△0.1154%(同△0.1271%)、応札倍率3.33倍(同3.26倍)となり、前回債より上昇した。同債は入札後にはセカンダリー市場で△0.099%まで出合いが見られた。6Mや1Yは閑散であった。

<レポ>

足許GC取引は週初△0.075%~△0.08%で始まり、以降週央にかけて△0.065~△0.075%まで上昇。その後短国3Mの発行日である8月5日受け渡しでは、前場△0.055%~△0.06%が出合いの中心、後場には一時△0.04%台まで上昇した。SC取引では10年355回債のbidが多く、国債買入オペがオファーされた8月1日受け渡しでは、△0.20%台前半~△0.30%近辺まで取引された。他2年401・402・403回債、5年137・138・139・140回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・353・354回債、20年164・165・166・167・168・169回債、30年59・62・63回債、40年9・11・12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。